

FICオープンセミナー報告

法政大学, 国際文化学部

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Journal of Intercultural Communication / 異文化. 論文編

(巻 / Volume)

20

(開始ページ / Start Page)

228

(終了ページ / End Page)

241

(発行年 / Year)

2019-04-01

「WOWOW 連続テレビドラマ W 『イアリー 見えない顔』——映像と小説Ⅱ—— イベント報告

前川 裕

7月10日（火）、FIC オープンセミナーとして教授会で承認されたイベント「WOWOW 連続テレビドラマ W『イアリー 見えない顔』——映像と小説Ⅱ——」が開催されたので、企画責任者として簡単に報告させていただく。

会場の薩埵ホールには、本学学生を主体とした400名（一部、WOWOWの一般招待客を含む）ほどの観客が詰めかけ、盛況となった。この企画は、2016年の6月6日（月）に開催された「映画『クリーピー 偽りの隣人』公開記念試写会&トークイベント」に続く、「映像と小説」というテーマに関わる第二弾の企画セミナーに相当するものである。

上映開始前に、まず大中一彌学部長が挨拶に立ち、この企画の趣旨について、丁寧に説明された。今回の観客の中には、一部一般客も含まれていたため、法政大学国際文化学部の活動を、内部だけでなく、外部にも発信する絶好の機会となったように思われる。

続いて、コメンテーターとして、本学部の廣松勲先生に「映像と小説」というテーマで、お話しいただいた。10分という限られた時間ではあったが、廣松先生の解説はアカデミックな雰囲気漂わせながらも、学生の関心を十分に惹き付ける工夫が凝らされており、所々で学生たちの笑いを誘っていた。『イアリー 見えない顔』以外の私の作品にも言及いただき、私としては大いに恐縮すると同時に、そのコメントの中に、実作者として大変参考になる点があったことを付け加えさせていただく。こういう上質な解説を通して、小説離れどころか、活字離れさえ起こしていると思われる学生たちが、文芸作品全般に対する関心を少しでも持ち始めるようになることを期待したい。

そのあと、いよいよ『イアリー 見えない顔』の第1話の上映となったが、私自身は控え室で監督や出演者の方々をお迎えする必要があったので、この上映自体は観ていない。ただ、画質や音声についても特にトラブルもなく、およそ50分で無事終了したと聞いている。

上映終了後、まずゲストの森淳一監督と私が登壇し、「小説と映像」というテーマでトークショーを行った。私は言葉から成る小説の抽象性について話し、フロイト学派的「夢判断」の原理を援用して、映像の具象性を強調し、そこに自ずと小説と映像の方法論的相違が表れることを述べた。それに対して、森監督は「心情は台詞にしないようにしています」と語った。私の抽象的議論とは違い、いかにも実践を積んだ映画監督らしい具体的なコメントである。しかし、一方では、原作に対する敬意も口にされ、「いったん原作から離れ、それが最後に台本になるときに、原作の良さを消していないか、もう一度原作に立ち返るように

している」と説明された。森監督の言葉は、私が一小説家として聞いても、大変参考になり、興味深くもあった。学部企画としてこういうトークショーを行う際、私が一番気にするのは、アカデミックになり過ぎて、学生たちの聞く耳を奪わないようにすることである。しかし、一方では碎け過ぎて、アカデミズムの要素をまったく消してしてしまうことも戒めなければならない。その意味では今回のトークショーは、森監督の分かりやすく実践的な発言のおかげで、ある程度のバランスを保つことができたと感じている。

このあと、出演者のオダギリジョーさん、仲里依紗さん、黒島結菜さんが登壇すると、場内は予想通り騒然となった。しかし、騒然とした雰囲気の中にも一定の秩序が保たれており、私としては、これもそこそこにバランスの取れたゲストの迎え方だったと考えている。トークショーは終始和やかな雰囲気で行われ、オダギリさんや仲さんのユーモアとウィットに富んだ発言で場内はたびたび沸き、参加学生とほぼ同世代の黒島さんの、謙虚で同じ目線の発言に、場内の観客も真摯しんしに聞き入っているように見えた。司会者が何度か私に話を振ってくれたこともあり、私も比較的スムーズに出演者たちの会話に入っていくことができたように感じている。

大学内で出演俳優を迎えて行うトークショーの意義は、何と云っても、そういうイベントに参加することによって、学生たちがまず映像作品に興味を持ってくれ、その興味が原作への興味へと繋がって行くことが期待できることだろう。昨今、小説だけでなく、映像作品に対する関心も、学生の間では著しく低下しがちであるというのが、私の率直な感想である。従って、私としてはどんなきっかけでもいいから、そういう関心が復活することを望んでおり、こういうイベントの果たす役割も小さくないと考えている。

WOWOW という有料チャンネルによる放送で、しかも連続テレビドラマだったため、観る側に多少の制約があったことは確かだが、この作品のDVD化も決まっており、今後も学生たちが第1話以降の展開を観ることは可能である。どんな形でも、学生たちの小説や映像全般に対する関心がつなぎ止められることを私は切に願っている。

今回は、前回の反省も踏まえて、イベントの開始時間を16時30分と遅めに設定した。なるべく授業に重ならないようにし、授業を行う先生方に御迷惑が掛からないようにするためである。同時に、多くの学生が参加できるように配慮したつもりだった。それでも、『クリーピー 偽りの隣人』のときよりも、一ヶ月ほど遅かったため、語学の試験や定期試験が近い時期で、そのことが多少とも学生の動員数に影響したことは否めない。しかし、人気俳優のスケジュールに合わせる必要上、開催日に関する選択の余地がほとんどないのが実情であり、これはいかんともし難いことであった。

このイベントでは、実に多くの方々にお世話になった。特に、大中学部長を初めとする教授会執行部の先生方、企画広報委員会の先生方、コメンテーターの役割を快諾していただいた廣松先生、裏方の仕事を引き受けてくれた私のゼミ生諸君にも心から、お礼を申し上げたい。

また、島田主任を初めとする国際文化学部の事務の方々には、前回同様、今回も言葉に表せないお世話になった。チラシの制作から、参加希望者を登録システムで整理する実務、

会場の設営と観客の整理に至るまで、あらゆる細部にわたって積極的に関わっていただいた。事務の方々の職域を超えた協力がなければ、このイベントの実施はほとんど不可能であったことを、ここであらためて申し上げておきたい。ただただ、深い感謝の気持ちを捧げるばかりである。

- ・日時：2018年7月10日(火) 17:30~19:50 (受付開始 16:30)
- ・会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 薩埵ホール

FIC オープンセミナー
ドラマ化に伴う試写会およびトークイベントの開催について

イアリー 見えない顔

国際化学部 前川裕教授著作『イアリー 見えない顔』が WOWOW 連続ドラマ W にて6月4日から放映予定となります。これを記念し、第1話が開試写会およびトークイベントを開催いたします。トークイベントには、前川教授、監督、豪華出演者が登壇します。ぜひ奮ってご参加ください！

【日時】7月10日(火) 17:30~19:50 (受付開始 16:30~)

【場所】市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 薩埵ホール

【次第】16:30~開場 受付開始

17:30~冒頭挨拶 (国際化学部長・大中一彌教授)

17:40~教員による講演 (国際化学部 廣松薫専任講師)

17:50~第一話上映開始

18:40 上映終了

18:50~トークイベント(森監督と前川教授)

19:10~舞台挨拶 (~19:50 終了予定)

登壇者：オダギリジョー様、神尾依紗様、黒島結菜様、森理一監督、前川裕教授

【申込】以下の申込サイトからお申込みください。
<https://www.event-u.jp/fm/10881> (PC・スマートフォン)

【費用】無料

【主催】法政大学国際化学部

【お問い合わせ先】法政大学国際化学部窓口 (ポアンナードタワー 1階)



※こちらのQRコードからもお申込みいただけます。

【ご注意】

- ※こちらからのご応募資格は本学学生、教職員のみです。
- ※学外者 (WOWOW 加入者対象及び関係者) も本イベントに参加します。
- ※申込定員に達し次第、受付を終了いたします。
- ※当日受付の際は、受付完了メールと学生証 (教職員は本学身分証) を必ずご持参ください。
- ※開場5分前までに会場に入場ください。上映開始後のご入場はできません。
- ※会場内では飲食は禁止です。また会場内での録音、録音機材等の使用、それと見受けられる行為は一切お断りさせていただきます。
- ※会場内では必ずスタッフの指示に従ってください。指示に従っていない場合には退場していただくこともあります。
- ※当日はマスクによる取材を予定しております。テレビなどに映る可能性がある旨ご了承ください。



関連情報
『イアリー 見えない顔』(2018年 海外ドラマ)
WOWOW 連続ドラマ W 6月4日放映予定(全6話)
※第1話無料放送

関連サイト
<http://www.wowow.co.jp/drama/series/>

